

会計理論分析 (旧：情報の経済学と会計学)

椎葉 淳

2019年4月9日火曜 ウェブ公開用

・シラバス

授業の目的と概要	アカデミックな領域での会計研究における最近の主要論点を理解し、かつこれらの論点の具体的な分析方法の基礎を学ぶ。この授業では特に、ミクロ経済学を応用した会計理論研究に焦点をあてる。
履修条件・ 受講条件	会計について基礎的な理解をしていること。また、大学院開講科目のミクロ経済学(特にゲーム理論)に関する知識を習得しているか、同時に履修・学習していること。
授業計画 ／Class Plan	会計理論研究において用いられる代表的なミクロ経済学のモデルを解説する。その後、受講生に論文を割り当て報告してもらう。論文は主として、会計分野の主要ジャーナルである、The Accounting Review、Journal of Accounting Research、Journal of Accounting and Economics、Contemporary Accounting Research、Review of Accounting Studies などから選択する。
授業外に おける学習	全体のおよそ半分は受講生に論文を割り当て報告してもらうので、担当論文を読んで報告準備すること。
成績評価	成績評価は、授業での報告と課題提出(1,2回)に基づく。
コメント/ Other Remarks	取り上げるトピックについては受講生と相談の上、内容を変更する可能性がある。第1回目の授業に必ず出席してほしい。第1回目の授業に出席できない場合、メールなどで連絡すること。
参考文献 / Reference	Christensen, J. A. and J. S. Demski. 2002. Accounting Theory: An Information Content Perspective. Irwin. Christensen, P. O. and G. A. Feltham. Economics of Accounting, Volume I: Information in Markets. Kluwer Academic Publishers. 2002. Christensen, P. O. and G. A. Feltham. Economics of Accounting, Volume II: Performance Evaluation. Kluwer Academic Publishers. 2005. Scott, W. R. 2015. Financial Accounting Theory, 7th. Pearson Education Canada, Inc., Toronto, Ontario. (太田康広・椎葉淳・西谷順平訳『財務会計の理論と実証』(原著4版)中央経済社。2008年。) 椎葉淳・高尾裕二・上枝正幸著『会計ディスクロージャーの経済分析』同文館。2010年。

・TOPIC

#1：企業価値評価

#2：利益マネジメント

#3：戦略的監査論

#4以降：未定 (ディスクロージャー, 契約理論, asset pricing その他受講者と相談)

・予定（進捗スピードにより変更の可能性あり）

	日にち	内容	担当
1	4月9日	イントロダクション (太田 2010a 自習)	椎葉
		TOPIC#1：準備（企業価値評価の基礎 1）	椎葉
2	4月16日	TOPIC#1：準備（企業価値評価の基礎 2）	課題#1 椎葉
3	4月23日	TOPIC#1：GMMW2019：モデルパート	椎葉
—	4月30日	(祝日のため授業なし)	-----
4	5月7日	TOPIC#1：GMMW2019：実証パート	授業参加者
5	5月14日	TOPIC#2：準備（確率統計，ゲーム理論）	課題#2 椎葉
6	5月21日	TOPIC#2：FV2000	授業参加者
	5月24日	阪大会計研究会：金曜 4 時限（14:40-16:10）509 セミナー室 TOPIC#2：BGM2018	報告者：伊瀬
7	5月28日	TOPIC#2：Stein1989	椎葉
8	6月4日	TOPIC#3：準備（ゲーム理論）	椎葉
9	6月11日	TOPIC#3：Ohta2008（太田 2010b）	授業参加者
10	6月18日	TOPIC#3：EW2019	授業参加者
11	6月25日	TOPIC#3：EW2019	授業参加者
12	7月2日	TOPIC#3：EW2019	授業参加者
13	7月9日	TOPIC#4：未定	授業参加者
14	7月16日	TOPIC#4：未定	授業参加者
15	7月23日	TOPIC#4：未定	授業参加者

・文献

TOPIC	略称	論文
#0	太田 2010a	太田康広「分析的会計研究へのいざない」，太田康広編，2010，『分析的会計研究』第 1 章所収。
#1	GMMW2019	Gao, Z., J. N. Myers, L. A. Myers, and W.-T. Wu, 2019, “Can A Hybrid Method Improve Equity Valuation? An Empirical Evaluation of the Ohlson and Johannesson (2016) Model,” <i>The Accounting Review</i> In-Press.
#2	FV2000	Fischer, P. E., and R. E. Verrecchia, 2000, “Reporting Bias,” <i>The Accounting Review</i> 75(2), pp. 229-245.
#2	BGM2018	Beyer, A., I. Guttman, and I. Marinovic, 2018, “Earnings Management and Earnings Quality: Theory and Evidence,” <i>The Accounting Review</i> In-Press.
#2	Stein1989	Stein, J. C., 1989, “Efficient Capital Markets, Inefficient Firms: A Model of Myopic Corporate Behavior,” <i>Quarterly Journal of Economics</i> 104(4), pp. 655-669.
#3	Ohta2008 (太田 2010b)	Ohta, Y., 2008, “On the Conditions under which Audit Risk Increases with Information,” <i>European Accounting Review</i> , 17(3), 559-585. (太田康広「監査人の情報取得と監査リスク」，太田康広編，2010，『分析的会計研究』第 8 章所収。)
#3	EW2019	Ewert, R. and A. Wagenhofer, 2019, “Effects of Increasing Enforcement on Financial Reporting Quality and Audit Quality,” <i>Journal of Accounting Research</i> 57(1), pp.121-168.